

ヘラシギ

Spoon-billed Sandpiper



夏羽

シギの仲間では最小クラス、全長 15cm ほどの小さな鳥です。

スプーンのようなくちばしを左右に振りながら泥の中を探り、ゴカイやエビなど干潟の生き物を食べます。また、飛んでいる昆虫をはさみとるなど、特殊な形のくちばしを生かして餌をとります。



冬羽



一度の繁殖で育てるヒナは最大で4羽です。

■ロシアで繁殖し、東南アジアで越冬する渡り鳥です。総移動距離は1万5千km以上にもなります。

■2000年以降、数が80%も減少しました。2018年8月の時点で240~460羽程度と推定されています。IUCNのレッドリストでCR(絶滅寸前種)に指定されています。

■減少の主な理由は、干潟の破壊や密猟です。

僕たち・私たち
ヘラシギの事を知って下さい



■干潟や湿地環境には、多くの生き物が生息しています。

■こうした湿地を守ることで、僕たち・私たちヘラシギがもう一度日本で羽を休めることができるようになります。

■ヘラシギを見つけたら、下記まで情報をお寄せください。

shigichi@bird-research.jp

ヘラシギの保護活動を継続・拡大していくために、ご支援をお願いします。

Yahoo! ネット募金



このリーフレットはトヨタ自動車株式会社の「トヨタ環境活動助成プログラム」の助成を受けて作成しています。

不思議なくちばしの小さな渡り鳥

ヘラシギ

を守ろう



ほぼ
実物大
小さいよ!

フライウェイ上の各国が協力して保護活動をしています。

ミャンマー



地元の保全グループを対象としたバードウォッチング研修



密猟は脅威の一つ



密猟者との合意形成



密猟者に対する生計向上の支援

中国



地域住民を対象とした普及啓発活動



©Jonathan Martine

衛星発信機をつけたヘラシギの調査

日本



©Eugene Cheah

ヘラシギを見守り、干潟を守る。

はんしょくち 繁殖地



ロシア



人工繁殖



地元住民に対する研修



人工孵化した幼鳥

ちゅうけいち 中継地



沿岸浸食は脅威の一つ



個体数調査

タイ



地元住民に対する普及啓発活動



地元保全グループに対するバードウォッチングイベントと研修

えっとうち 越冬地



みんなで守る ヘラシギの旅路